



第68回前島密賞 受賞者決定について

拝啓 時下ますますご清栄のこととお慶び申し上げます。

本日15時に公益財団法人通信文化協会が報道資料「第68回前島密賞 受賞者決定について」を総務省記者クラブならびに日本郵政株式会社記者クラブに配布しております。

ケーブルテレビ業界では、以下2名の方が受賞の栄誉に浴しましたのでお知らせいたします。

前島密賞： 宮内 隆 氏（株式会社愛媛CATV 代表取締役社長）

前島密奨励賞： ^{おおが}大鋸 あゆり 氏（伊万里ケーブルテレビジョン株式会社 常務取締役）

■前島密賞について

通信事業の創始者「前島密」の功績を記念し、その精神を伝承発展せしめるため、1955年に設けられ、情報通信および放送の進歩発展に著しい功績のあった方々に贈られます。奨励賞は、第66回から新たに設けられ、情報通信・放送分野において、現に活躍するとともに実績を上げており、今後もなお一層の功績が期待される方々に贈られます。

■ご参考

公益財団法人通信文化協会の報道資料(抜粋)を添付しております。

敬具

■本件に関するお問合せは下記までお願いいたします
一般社団法人日本ケーブルテレビ連盟 <<https://www.catv-jcta.jp>>
担当：地平・藤原
TEL：03-3566-8200 FAX：03-3566-8201

報道資料

第68回前島密賞 受賞者決定について

公益財団法人通信文化協会では、第68回（令和4年度）の前島密賞の受賞者を別紙のとおり決定しました。贈呈式は、4月6日（木）に行います。

記

1 前島密賞の趣旨等

前島密賞は、逓信事業の創始者「前島密」の功績を記念し、その精神を伝承発展せしめるため昭和30年（1955年）に設けられたもので、以降毎年度、情報通信事業（郵政事業を含む）及び放送事業の進歩発展に著しい功績のあった者に贈呈しています。

また、第66回より、新たに「奨励賞」を創設し、情報通信・放送分野において活躍し今後もなお一層の功績が期待される者に贈呈しています。

情報通信・放送は、日常生活に欠かせない重要なインフラであり、コミュニケーションツールです。通信の役割が益々重要になってきており、大量の情報が取り扱われています。一方、通信障害やセキュリティも大きな問題となっているところです。

このような状況の中、今回は、通信サービスの提供の維持や大量のデータを高速に、また、安心して使えることのできる高度な情報通信社会の実現に寄与するものなど、時代の要請にかなった功績が多くあります。

通信文化協会は、引き続き通信・放送文化の発展のために取り組んでまいります。

2 受賞者の概要

(1) 前島密賞

14件 24名・1団体

- ① 情報通信・放送分野において、長年に亘り多大な功績のあった者、先駆的な研究開発を行った者など。
- ② 通信・放送の提供や維持に貢献があった者、地域のインフラとして地域貢献に資する功績があった者など。

なお、副賞として、元日展理事、日本芸術院賞・恩賜賞受賞 高橋剛氏作のメダル（ただし、共同研究・共同行為・団体による受賞者は金一封）を贈呈します。

(2) 奨励賞

4件 4名

- ① 若手経営者として活躍している者、現場の第一線で活躍している者。
- ② 先駆的な研究開発を行った者。

なお、副賞として、前島密賞のメダルの意匠を入れた楯を贈呈します。

3 選考要領

毎年、当該年度の実施要領に示す推薦機関から受賞候補者の推薦を受け、選考委員会の議を経て理事会で決定します。

4 贈呈式

- (1) 日時
令和5年4月6日(木) 午前11時00分
- (2) 場所
KKRホテル東京
(千代田区大手町1-4-1)

5 協会の定款及び前島密賞規程

- 公益財団法人通信文化協会 定款 第3条
本法人は、郵政博物館の運営、前島密賞の贈呈、通信文化の普及・発展等に関する事業を行い、もって我が国の手紙等文字コミュニケーション文化と情報通信・放送文化の向上に寄与することを目的とする。
- 前島密賞規程(抄)
第2条 前条の賞は、前島密賞及び奨励賞とし、それぞれ次の各項に該当する者に贈る。
 - 2 前島密賞
情報通信・放送に関わる次の各号ごとに、特段の功績があったと認められる者。
 - (1) 情報通信ネットワークの提供及びユニバーサルサービスの維持のために顕著な功績があった者
 - (2) ICT(情報通信テクノロジー)に係わるイノベーションを発案し、ネットワーク社会の進歩発展に顕著な功績があった者
 - (3) ネットワーク社会の進歩発展又はコミュニケーション文化の振興・発展に関し、顕著な功績があった者
 - 3 奨励賞
情報通信・放送分野において、現に活躍するとともに実績を上げており、今後もなお一層の功績が期待される者。

[連絡先]	公益財団法人通信文化協会 前島密賞事務局 松原 〒113-8139 東京都文京区湯島 4-5-16 TEL : 03-5809-7148
-------	--

第68回(令和4年度) 前島密賞 受賞者 功績

(敬称略)

所属・職歴は、推薦時

8 一般社団法人日本ケーブルテレビ連盟推薦

[個人：功績1号]

宮内 隆	(株)愛媛CATV 代表取締役社長 (一社)日本ケーブルテレビ連盟副理事長、通信・放送制度委員会委員長 ・2019年 一般社団法人日本ケーブルテレビ連盟／一般社団法人日本CATV技術協会 第31回ケーブルテレビ功労者表彰 他1件
<p>【最新技術を積極的に導入し、他社の範となって地域インフラの高度化と業界全体の発展に貢献】</p> <p>放送と通信の両分野で他社に先駆けて最新技術を積極的に導入し、先進的なサービスを投入することで、普及促進と実用化を図り、顧客満足度を高め地域活性化に貢献するとともに地域インフラの高度化に寄与している。</p> <p>通信・放送制度及び企業経営における危機管理に関する高い知見を持ち、その啓発を通じて業界を牽引している。</p>	

(株)愛媛CATVに入社以降、お客様、地域社会の為に為すべきことは何か、を常に考え、「地域社会とお客様のため」をコンセプトに、放送と通信の両分野で多種多様な情報発信と最新の技術を用いた高度なサービスを常に導入し続け、地域への貢献、新技術の普及促進を図るとともに、業界全体を牽引している。

放送の分野では、2チャンネル程度が平均的なところ、14チャンネルもの自主放送番組を制作・放送し、地域情報の発信に努めることで、地域の高い信頼を得ている。4K放送設備を早期に導入し、いち早く2015年から独自に放送を開始するなど、早い段階から4K視聴環境を整備し、その普及に貢献した。

通信の分野では、サービス高度化を目的に伝送路の光化(FTTH化)を進める一方、ローカル5G推進にも精力的に取り組んだ。2020年には、四国で初となる免許を取得し、ローカル5Gを備えたシェアオフィスの開発など様々なサービスの提供に取り組み、ローカル5Gを実用の段階まで進め、地域の通信インフラの高度化に貢献するとともに、ローカル5Gそのものの普及にも大きく貢献している。

県・市の公共インフラ構築・運営にも積極的に参画し、防災情報の発信等に加え、新型コロナウイルス感染症対策として、教育専門及び医療専門の両コミュニティチャンネルのインターネット無料配信を即断するなどし、緊急時における地域への貢献も非常に大きく、地域からの信頼も厚い。

日本ケーブルテレビ連盟の活動においては、副理事長や通信・放送制度委員会委員長として、社会環境の変化や新技術の導入などにより常に変化する通信・放送制度の変遷を適切に評価・分析し、最新の状況を業界内に展開することで、業界全体の発展に多大な貢献をした。

第68回(令和4年度) 前島密賞 受賞者 功績

《 奨励賞 》

(敬称略)

所属・職歴は、推薦時

4 一般社団法人日本ケーブルテレビ連盟推薦

[個人]

大鋸 あゆり	伊万里ケーブルテレビジョン(株) 常務取締役 (一社)日本ケーブルテレビ連盟 地域・コンテンツビジネス推進委員会 副委員長 ・2015年 第41回日本ケーブルテレビ大賞 番組アワード グランプリ(総務大臣賞) 他12件
<p>【番組制作を通じて地域活性化に貢献し、地方・小規模局の範として業界全体の発展に貢献】</p> <p>番組制作において地域に真剣に寄り添い、また、通信・放送のプラットフォームと地域の様々な組織・団体とのコラボレーションを積極的に行うことで、地域の活性化に貢献した。これらの取組みは、業界における小規模局のあるべき姿として、業界全体の発展に貢献している。</p> <p>今後も、地域への貢献と業界を牽引するリーダーとしての更なる活躍が期待される。</p>	

伊万里ケーブルテレビジョン(株)に入社以降、番組制作において地域に真剣に寄り添い、事業の発展に大きく貢献した。地域情報の発信にとどまっていた番組制作の方針を改め、地域の為に報道・発信すべきこと、地域でしっかり議論すべきことは何か、を根幹に据え、地域の社会問題の取材と発信を継続的かつ徹底的に行い、メディアとしての信頼を得ている。

卓越した番組制作能力の発揮により、業界全体の映像制作のレベルを押し上げるとともに、各種セミナーを通じ積極的な発信を行い、女性制作者や小規模局の地位向上にも貢献している。

番組制作分野においては、報道だけでなく市民の生命を守る責任を果たす目的で、市内の河川各所にネットワークカメラを設置し常時中継する「防災チャンネル」を開設するなど、手厚い情報発信を行っている。

また、番組制作過程で得た地域との関係、信頼を活かし、自治体、地元企業などと様々な連携を通じ、新たなビジネスを創出しており、通信・放送のプラットフォームと地域の様々な組織・団体とのコラボレーションを積極的に行うことで、地域全体の活性化にも大きく貢献している。

これらの取組みは、業界における小規模局のあるべき姿として、また、男女問わず若手社員や番組制作者の目指すべき姿として高く評価されており、業界全体の発展に貢献している。

日本ケーブルテレビ連盟の活動においては、地域・コンテンツビジネス推進委員会の委員、副委員長として、業界全体の地域・コンテンツビジネスを積極的に牽引し、連盟の最重要プロジェクトの推進に貢献している。

高齢者見守りサービスの実証実験や60GHz帯を利用した公共Wi-Fiの試験的設置など最新の無線サービスを活用したサービス導入にも取り組んでおり、今後も、地域への貢献と業界を牽引するリーダーとしての更なる活躍が期待される。